

紛失防止のために
整理整頓を



手づくりの整理グッズで、なくなったものがないか一目でわかるようにしました。きれいな状態を維持しようと、意識も変化したそうです。

作業場の入り口には、全員がわかるように表示を



「体調不良者の入室禁止」などの表示のほか、経営方針や、作業前のチェック事項などを掲示。ラミネート加工して汚れにくくするなど、工夫しています。

同じケースは中身を
ラベルに記入



中身がすぐにわかるように、ラベルを貼りました。探す手間を省き、誰でもすぐに取り出せるようにしています。

農業庫にも工夫を



在庫や使用期限をチェックしやすいように整えています。上段には粉剤を、下段には液剤を置き、漏れ出ないようにトレーを敷いています。



散布時の服装や取り扱いの注意点も掲示しています。

衛生管理の基本
「手洗い」もしっかりと



流し台に手洗い手順を貼りました。ついつい適当になりがちな部分を見直すこともGAPです。

GAP 認証を取得!



海老名市の伊田園芸は2月、ニラでASIAGAP Ver.1※の認証を取得しました。生産者が、県や農業技術センター、JAとタッグを組んで認証された県内初めての事例です。

代表の伊田勝義さんに、取得までの道のりや取得したことによる変化、よかったと感じていることなどを教えてもらいました。

※一般財団法人日本GAP協会が策定した日本発のGAP認証。Ver.1は旧JGAP Advance2016。

伊田園芸
代表 伊田 勝義さん

95aの圃場で、妻、息子夫婦とニラを栽培。伊田園芸のニラは、グリーンセンター海老名のほか、市場出荷をとおして県内のスーパーにも並びます。

伊田さんのニラの圃場

取得までの道のり

昨春秋、オリンピック食材の提供にGAP認証が必要だという話を聞き、取得に興味を持ったという伊田さん。インターネットなどで調べたり、JAや関係機関へ問い合わせたりするなかで、ASIAGAPを取得しようと思った。

わからないことが多かったため、研修会に参加したり、認証取得している企業の視察に行ったりと、情報収集も行いました。「実際に認証をとった現場を見て、イメージを持つことが大切だ」と話します。



伊田園芸の出荷袋にはASIAGAPのマークが

取得は農作業の振り返りに

認証取得に必要な基準を満たすための点検項目は、栽培作物や経営環境などによって、生産者ごとに異なります。ゼロから作りあげるのは、とても大変だったそうです。しかし、自身の現場に合った項目を作る過程で、自分自身の農作業を振り返るようになった、とその意義を話します。例えば、「整理整頓や作業効率がよくなった」など、すぐに効果が実感できたといいます。

当初は、各項目を細かくチェックすることに負担を感じることが多かったそうですが、「今では習慣化し当たり前のことになった」と笑顔を見せます。



作業場の点検を行う伊田さん

作業場にたくさんの工夫を

GAP 認証を取得したことで、たくさんの変化があったと話伊田さん。作業場の様子を見せてもらいました。

取得は自分を守ることに

GAP 取得のメリットのひとつとして、販路の拡大があります。しかし、「何よりみかたごとと、自分たちの安全を確保できるところだ」と、伊田さんは話します。GAP 認証のマークが証憑になっています。

ただし、取得してから安心というわけではありません。むしろ取得後のほうが、「見られている」という意識が強まり、気持ちは一層引き締まっているそうです。定期的に維持審査があり、継続して改善することも求められています。

農作業に携わる家族全員が情報を共有し、作業への意識を高めることができた伊田園芸。さらなるレベルアップをめざしています。



伊田さん夫妻

GAP 認証にはさまざまな種類があり、かかる費用・期間も経営体の状況で大きく異なります。自分自身が何をめざし、何を必要なのかを考えると大切ですね。